

陸上クラブ紹介 No.7

篠ノ井高校陸上部

校門を入ると、左右に大きなヒマラヤ杉が並び、植樹以来80数年風雪に耐えて、たくましく伸びています。

篠ノ井高校陸上部も、長い歴史の中で数多くの優秀な選手が生まれています。今にしてなお4選手の名前が、長野県高等学校記録として刻まれ、我々の記憶にもあざやかに生きています。校内や部屋に残された賞状や写真などを見ながら、先輩



たちは少しでも近づき、追い越そうとひたむきに練習に取り組んでいます。

「清楚にして高雅な気品、柔軟にして強靱な力をもつ篠竹のように」という校章に込められた精神の前半の部分はともかく、底力のある粘り強い選手をめざして、現在34名で活躍中です。篠ノ井陸上部の伝統なのか、本当によく練習します。中学時代華々しい成績を残した者は少なく、決してエリート集団ではないのですが、日々の努力で記録を伸ばし、3年目には見違えるように成長します。ここ数年は女子が優勢でしたが、少人数ながら、男子にも自覚が生まれ、これからの活躍が楽しみです。

全国インターハイや駅伝への出場をめざすと同時

に、毎年部内で発表される「篠ノ井陸上部種目別歴代ベスト3」に入ることも、部員の大きな目標になっています。自分の名前を記録史の中に刻むことができるのも、陸上競技ならではの喜びでしょう。ちなみに今年も、7種目にわたって男女9名が、歴代ベスト3の中に入りこぶことができました。

卒業生の中には、現役で活躍している人も多く、一緒に母校で練習したり、アドバイスをしてくれます。また、都道府県駅伝2連覇を果たした西澤民雄監督や卒業生の近藤彰コーチなど、長年にわたって献身的な指導をされている多くの方に恵まれた篠ノ井陸上部は、更なるステップアップをめざしています。

顧問 横谷貴美江

県陸協役員改選

先般2月6日、松本市において、長野陸協評議員会が開催されました。長野市陸協から、副会長に小口正行氏、副理事長に浦野義忠氏、審判委員長に勝本勝彦氏、監事に大竹義雄氏が選出されました。

17、18年度のご活躍を期待します。

編集後記

新しい年2005年の幕開けから、はや3ヶ月が立とうとしています。“動き”第8号をお届けいたします。

雪の降るのが遅いと大きな声で言うことができませんでしたが、昨年から今年にかけて、浅間山の噴火・新潟中越地震・まれに見る大雪等、自然災害が多く、小千谷地方の雪の様子がテレビ・ラジオ等で報道される度に、心が痛みます。

一方、スポーツ界では、全国都道府県対抗男子駅伝で2年連続優勝。なかでも、中学生の広徳中学生的頑張りがありました。

まだまだ寒い時季、体調に充分ご注意ください。

早く来いこい 春よ来い 山越え谷越え 早く来い(早川)

SHINANO MATE



ATHLETIC UNIFORM

株式会社 **しなのメイト**

〒389-0606 埴科郡坂城町大字上五明992-2
PHONE (0268) 81-1336
F A X (0268) 81-1337



題字の“動き”は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号か発行されていました。

平成17年3月18日

発行所 長野市陸上競技協会
発行人 浦野義忠
編集人 早川千吉郎

1期目を振り返って

長野市陸協の理事長をお引き受けしまして、1期目が過ぎようとしています。会員の皆様には、その間、長野市陸協発展のためご尽力、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。皆様方の期待に添えるような任務を遂行できたかどうか不安な面も多ありますが、2年間が終わり、感謝の気持ちで一杯です。

就任に当たり、長野市陸協活性化の為に何をしなければいけないか、どうすれば発展していくのか、伊藤会長・北原総務部長と話し合いを持ちました。大きな柱の1つは、選手強化・選手育成でした。

今年度の主な活躍を記しますと、山本晴美選手の日本選手権及び日本実業団選手権の優勝、宮澤洋平(長野工業高校)選手が国体3年連続400M4位、市町村対抗駅伝5連覇、長野県縦断駅伝2連覇、更に長野日大高校女子チームが2年連続全国高校駅伝出場、また先に行われました全国都道府県男子駅伝において2連覇を成し遂げた長野県チームに公徳中学の佐々木健太(2年)・廣澤貴行(3年)両選手と、山田良徳先生

長野市陸上競技協会 理事長 浦野義忠

がコーチとして選手団に加わり金字塔を樹立してくれました。ご協力いただきました会員の皆様に改めて感謝申し上げます。

「満足することは退歩の前提である」とも言われます。鷲沢長野市長は、「オリンピックを開催した都市としてスポーツを強くする義務と責任がある」と熱く語っています。今後、全国中学・高校・大学選手権・団体等を含め更なる活躍を期待し、熱願しています。また、会員の皆様には、審判として長野マラソンをはじめ、各競技会に積極的に参加をしていただき、感謝しております。これからも、大会で選手が力量を発揮し、会員相互が気持ちよく審判をすることにより、自ら進んで奉仕する姿勢で参加をお願いしたいと思います。

17年度は、日本陸連審判講習会が長野市で開催されます。また、第15回長野市町村対抗駅伝に第1回小学生駅伝が併催になります。関係する皆様方のご協力をお願いいたします。1期が終わり、ご協力いただきました皆様方に感謝を申し上げ、文を閉じます。

第53回長野県縦断駅伝2連覇達成 鷲沢市長表敬訪問

長野市駅伝部長 土川国入

平成16年度を締めくくる、長野県縦断駅伝大会は2連覇達成ができ、後押しを戴いた関係者の皆様に感謝申し上げます。年末も押し迫った12月17日夕、依田邦夫副会長以下12名で鷲沢市長を訪問し、田中監督の挨拶、選手の自己紹介及びレース展開を報告しました。お迎えいただいた市長、体育協会、体育課の皆様から「2日目の最終区間でトップを奪われて残念だったが、総合優勝できたのは全員のチームワークで勝ち取った成果ですね。」と、ねぎらいの言葉を戴きました。駅伝部は春、市町村対抗駅伝5連覇、秋、県



下縦断駅伝2連覇を続けていますが、これは、体育協会より5年計画で、選手強化補助制度を設けていただき、今その成果の現れかと、感謝しています。



報告の中でも取り上げましたが、徳武雄次郎(47)市川武(44)選手の両ベテランの区間優勝と西塔欣史(21)本田高志(21)選手の若手が力をつけ、エース区間を力走したことが、優勝に貢献しました。駅伝は長くも短くもその選手にとっては楽のできないものですが、個人の持ち味を引き出し、アドバイスができる高野和彦(35)キャプテンの存在は、駅伝部にとって欠かさないスタッフです。市の選手強化制度に合わせ春、秋の両駅伝大会の連覇を目指し、今後もますます選手強化を計りますので、よろしくお願致します。

◆◆◆ 都道府県対抗駅伝に出場して ◆◆◆

今年の1月23日に行われた都道府県対抗駅伝で、6区を走らせていただきました。
お正月の千葉合宿では、調子があまりよくなくて、自分が走れるのか少し不安でした。しかし、大会が近づいて、だんだん調子が上がってきました。
そして、1月21日に広島へ新幹線で向かいました。広島駅に降りた時、「やっとこの場にきたんだ。な



広徳中学校2年 佐々木健太

んとか自分も走りたいな。」と、思いました。コース試走の時は、自分が走ると思われる区間をレースの感じをつかみながら走りました。コースは、3kmで、起伏があまりなく走りやすいコースだと思います。
ついに、前日のミーティングになりました。監督に「6区佐々木」と呼ばれ、とてもうれしかったです。「しっかりとたすきをつなぐぞ。」と、思いました。

大会当日、1区から7区の選手は、バスでそれぞれの中継所に向かいました。そこで、ウォーミングアップを始めた頃、2区の唐沢先輩が、1位で走って行くのが見えました。「自分もしっかり走ろう。」と、心に決めました。山田先生からは、「自分の走りをすればいい。」と、言われました。

いよいよ、自分にたすきが渡りました。兵庫との差は7秒でした。走っているうちに、兵庫の選手に追いつかれましたが、「ここでしっかりついて離されないように走るぞ。」と、自分のなかで気持ちを切り替えました。最後にスパートし、なんとか2位で、上野先輩に渡せました。

上野先輩は、すぐに宮城をぬいて、兵庫とのデットヒートの末に1位でゴールしてくれてほんとううれしかったです。

自分も上野先輩みたいなすごい選手になりたいです。

第5回 ホープさん

長野西高校2年 原田 俊介

●●● 僕と陸上と ●●●

私が陸上競技を始めて、もうすぐ2年がたとうとしています。いつの間にか、もう最後のシーズンが目前に迫ってきました。

陸上と出会ったのは、高校入学の春でした。ある日、顧問の中澤先生が、「お前、いい体つきしているな。絶対、長野県のチャンピオンになれるぞ。」と言って、私を引きとめてくれました。今まで、部活などでここまでハッキリとした期待を寄せてもらったことのなかった私にとって、この言葉は、とても嬉しいものでした。そして、私は陸上部に入部したのです。

それまで私が『陸上』と聞いて思い浮かべることは、走るだけでしたが、先生はそれだけが陸上でないことを教えてくれました。そして投擲というものを知り、円盤投げと出会いました。それからは、毎日の練習や週末の大会に出るこ

とが、とても楽しかったです。記録がのびなかった時も、先生のアドバイスや家族、友達の励ましに助けられ、なんとか乗り越えられました。残念ながら、まだ長野県の頂点には立っていませんが、今シーズンは必ず1位になれるよう、そしてインターハイに出場できるように、頑張っていきたいと思います。

私は、陸上が好きです。陸上大好きです。ほんの少しでも記録がのびたときの楽しさ、大会で表彰台に乗れるときの嬉しさ、辛くキツイ練習を乗り越えたときのすがすがしさが、何より好きです。それを味わえるのは、親のおかげ、先生のおかげ、道具のおかげ、そして友達のおかげです。私は、陸上ができるということの喜び、そして、まわりで支えてくれる人達への感謝の気持ちを忘れることなく、これからも前進し続けていきたいと思っています。

平成17年度 長野市陸協競技日程

4/ 3 (日) 日本陸連審判講習会 (長野市)	7/ 16 (土)
17 (日) 第7回長野マラソン・第1回車イスマラソン	第51回長野県中学通信陸上競技大会
29 (金) 第7回信大・名大対校戦	17 (日)
30 (土) 第7回北信地区記録会	8/ 21 (土)
5/ 1 (日) 第90回長野市内高校春季陸上大会	第47回北信陸上選手権
13 (金)	第114回北信高校陸上競技大会
15 (日)	22 (日)
22 (日) 第36回長野市身障者大会	9/ 11 (日) 第9回長野マスターズ長野市大会
27 (金)	16 (金)
29 (日)	第115回北信高校新人陸上競技大会
6/ 4 (土) 第22回北信小学生大会	18 (日)
5 (日) 第44回北信中学陸上競技大会	23 (金) 第33回長野県中学新人陸上東北信大会
11 (土) 第14回長野地区障害者スポーツ大会	10/ 2 (日) 第19回飯綱マラソン
18 (土) 第12回中学混成大会	8 (土) 第8回北信地区記録会
7/ 9 (土)	16 (土) 2005キッズRAN
第58回長野県陸上競技選手権	22 (土) 第91回長野市内高校秋季陸上大会
10 (日)	23 (日) 第32回NAGANOスポーツフェスティバル

思い出の写真シリーズ

第6回

思い出の写真

長野陸上競技協会 副会長 小口正行

1958 (昭和33)年、日本学生陸上競技連合は、創立30周年記念行事としてアメリカ陸上競技チームを招聘しました。8月19日來日したアメリカチームは、8月23日～24日の国立競技場における日本学生対アメリカを結戦に、8月30日～31日札幌円山、9月4日横浜三ツ沢、9月6日名古屋瑞穂、9月7日京都西京極、9月10日福岡で対抗戦が挙行され、最終戦は、9月14日に第4回一般対学生と兼ねて小田原で開催されました。

私は三ツ沢、瑞穂、福岡と小田原の各大会に出場しました。この時、福岡へはアメリカ空軍の好意で、立川の横田基地からアメリカ空軍の輸送機で移動しました。当時は、旅客機での輸送がめづらしい時代でしたので、貴重な体験をしました。

空調設備もない機内で、ランニングシャツとパンツという軽装にパラシュートを背負っての飛行でした。パラシュートの扱

いについては、アメリカ空軍の兵士から微に入り細にわたって説明がありました。その時、命の大切さを強調して、話されていたことを未だに鮮明に記憶しています。ここに取り上げた日本代表のユニフォーム姿の写真は、福岡の宿舎で

後輩の大串啓二 (400m障害オリンピック選手 現在、日本陸連理事・総務委員長)、安田矩明 (棒高跳オリンピック選手元日本陸連理事・強化委員長、中京大学教授、平成16年逝去) 両君と一緒に撮った時の1枚です。当時は、東京教育大学陸上競技部のコーチとして、後輩の諸君と一緒に練習し、7月の第11回全国勤労者陸上競技大会において、三段跳に優勝するなど、充実した競技生活を送っていた時代です。

『日本陸上競技連盟七十年史』には、1958年《昭33》日本10傑の項で、走幅跳9位7m21、三段跳7位15m30と記されている。

